

平成28年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
1 本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて学習指導を実施し、看護師・介護福祉士に求められる学力の向上を図る。	① グループ学習や調べ学習、ICT機器の効果的な活用による言語活動の充実などアクティブラーニングを積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。	「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、授業形態、研修内容を再検討する。 1年生 66.6% 2年生 64.7% 3年生 73.8% 専攻科 86.7% 全校 71.4% 評価 C	昨年度最終評価から2%増加した。中間評価から4%減少した。「思考力、判断力、表現力を育成する指導法の開発・実践」を研究テーマに研究授業を7回実施した。スクールポリシーを踏まえ、グループ学習や調べ学習などアクティブラーニングを積極的に取り入れた。互いの考えを深め合うようなペア学習・班活動を積極的に取り入れる。また、思考が深まる協働学習に関する研修を計画する。
	② 効果的な教材(動画、画像、資料等)の提示、生徒がICT機器を使用し発表する等により、授業への興味関心を引き出し、基礎学力の定着や思考を深める。	「ICT機器の活用等教材・教具は工夫されている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C以下の場合、指導方法の工夫、授業内容を再検討する。 1年生 75.3% 2年生 72.9% 3年生 81.8% 専攻科 87.8% 全校 78.5% 評価 B	昨年度最終評価から2%上昇した。中間評価から1%減少した。iPadを活用し、動画・画像・資料等を用いて、授業への興味関心を引き出すよう工夫した。生徒がICT機器を活用して発表する機会や考えをまとめさせる活動を設定するなど「思考力、判断力、表現力の育成」に繋がるより効果的なICT機器の活用の実践を積み重ねていく。
	③ 生徒の思考を促す発問やペアやグループで思考を深める場面を適宜設定する。	「考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C以下の場合、授業形態の工夫、授業内容を再検討する。 1年生 76.2% 2年生 72.2% 3年生 82.3% 専攻科 93.8% 全校 79.7% 評価 C	昨年度最終評価から2%増加した。中間評価から1%減少した。1・2年生は、思考に必要な基礎的知識・技術の充実に努める。生徒の思考を促す発問や課題提示をしながら、ペア・グループワークを取り入れる。3年・専攻科生は、既存の知識・技術を活用し生徒が主体的に考察する機会を設定する。実習での経験と知識を統合し、判断する力が身に付く課題提示をする。
学校関係者評価委員会の評価	ICTを活用した授業が定着し、生徒の授業に対する肯定評価が学年を増すにつれて上がっている。今後も生徒にとって「興味深く、意欲が湧く」授業となるよう、継続して取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用で、生徒の関心・意欲を喚起し、学習内容の理解を促進するよう努める。アクティブラーニングを通して生徒の学習意欲の向上や、学習内容の確実な定着を図る。 各教科間での情報交換をさらに行い、効果的な指導法の実践を共有化する機会を設けることにより、看護師・介護福祉士に求められる基礎知識を定着させ、一層の学力向上に努める。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
2 専門教科指導をより充実させて、専門職に就く者としての資質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。 1年生 4人 評価 C 2年生 3人 評価 B 3年生 6人 評価 D	<1年>専門総合偏差値(55.4)基礎看護(56.9)、基礎医学(52.9)である。根拠を丁寧に調べる学習習慣を身につける。 <2年>専門総合偏差値(54.7)。基礎看護(52.3)、基礎医学(56.0)である。模試の調べ学習や課題を通して確実に知識が定着する学習方法を身につける。 <3年>専門総合偏差値(53.5)。基礎看護(53.3)、基礎医学(53.1)である。確実な知識定着と思考力の強化を図る。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B以下の場合、指導方法を再検討する。 専1 模試(2月初旬) 1人 評価 B 専2 模試(1月中旬) 0人 評価 A 看護師国家試験全員合格	<専1> 国試係を中心に課題の丁寧な調べ学習を継続。考査・模試直し、課題の提出を徹底、学習習慣が確立していない生徒は長期休業中に補習。今後、専門的知識・技術を活用し状況判断力や問題解決力の向上を図る。 <専2> 総合偏差値 58.9。丁寧な考査・模試直し、苦手科目の休日補習を実施。ピアサポートの視点を取り入れたグループを編成し、主体的に学びあう体制が確立した。
	③ <1,2年生> 毎日継続して学習する習慣を身につける。 <3年生> 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。	<1,2年生> 課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<1,2年生> CまたはDの場合は、個別指導を行う。 1年生84.3% 評価 D 2年生86.4% 評価 D <3年生> CまたはDの場合は、取り組み方法を検討する。 100% 評価 A	<1年>9月にはほとんどの生徒が課題を提出できていたが、10月後半より提出できない生徒が増加してきた。11月後半より個別指導を実施したため一時は改善が見られたが、12月後半には悪い状態に戻っていた。提出できない生徒に対して家庭学習が習慣化するまで個別指導を継続していく。 <2年>7月の時点では日々の課題提出ができない生徒が一日平均1.8人だったが、今回の評価では5.4人と増加した。3年生へ向けた準備という点からも個人面談を実施し、安定した学習態度を身につけられるようにする。 <3年>9限目の補習を実施して弱点分野の学習を進めることにより、伸び悩んでいた生徒の得点率が上昇した。今回の国家試験では問題傾向が変わり、事例文に対する読解力や医療的知識が必要であった。今回の試験の分析を基に来年度の対策を立てる。
学校関係者評価委員会の評価	国家試験合格率100%を両科とも維持できたことは大変素晴らしい。地域の医療・福祉に貢献できる優秀な人材を今後も育ててほしい。生徒達は他校生と比較して目標がはっきりしている。資格取得100%をさらにアピールし、志願者確保につなげてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・1年生より、家庭学習が定着するよう個別指導を強化する。看護師・介護福祉士国家試験の全員合格を継続するため、知識・技術の指導にとどまらず、心の教育の充実とカウンセリング体制の整備を一層進める。 ・国家試験の出題傾向の変化に対応し、分析をしっかり行い指導を工夫していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
3 課外時間を用いた健康指導を充実させ、看護師・介護福祉士に求められる健康な心・体の育成を図る。	① 定期的に部長会を行うことで各部長のリーダーシップを育成する。また各部において目標を設定することで、部活動の活性化を図る。	アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A 90%以上 B 70~90%未満 C 50~70%未満 D 50%未満 である。	(アンケートより) 部活動に積極的に参加したと答える生徒の割合 77% 評価 B	アンケート結果により、積極的に参加していると答える生徒の割合は、昨年度の86%から大きく減少した。各学年の結果を見ると1年生は12ポイント、2年生は8ポイント減少している。部長会を実施し活動の促進を図ったが、様々な学校行事もあり、部活動全体での活動を行える時間の確保が難しかったことがこの結果の原因の1つとして考えられる。活動時間の確保、参加したくなるような部活動の運営が必要である。
	② 縄跳び(二重跳び)の実施により、自己記録の更新に努めながら、あきらめない態度の育成や体力の向上を図る。	<1年生> 二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が <2・3年生> 前年度の自己の記録を10%以上、上回る生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	<1年生> 87.7% 評価 A <2・3年生> 2年生 71.3% 評価 B 3年生 80.9% 評価 A	<1年生> 二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が、昨年度の記録を大きく上回った。 <2・3年生> 中間報告では、2・3年生の達成度は共に60%未満であったが、記録の提示や言葉かけをし、自己記録の更新を働きかけた結果、3年生は目標をクリアした。しかし、2年生は80%を超えることができなかった。2年生については、今後も縄跳びの練習を通し、諦めない態度の育成を継続し、体力の向上につなげていきたい。
	③ 立ち止まったの挨拶ができるよう指導する。	保護者アンケートで「立ち止まったの挨拶ができています」との回答が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	12月保護者懇談会 アンケート結果 A できている 86.4% B できていない 13.6% 評価 A	「立ち止まって挨拶を」と目標のハードルを高め取り組んできた。生徒には挨拶の大切さを機会を捉えて訴えてきた。創立50周年記念式典、全国さんフェア石川大会などの重要な行事を経て、実際に評価される立場にあったため、生徒もさらに前進できたのではないかと考える。数値の上では確実にレベルは上がってきている。しかし、日中・放課後の挨拶までとなると十分とはいえない。今後も粘り強く継続した指導を続け定着させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	田鶴浜高校生の朝夕の登校の様子が、町内の雰囲気を作っている。生徒の元気な挨拶はその大切な要素になっている。看護師・介護福祉士を目指す生徒にとって、コミュニケーションの基礎となる挨拶はとても大きな意味を持つ。今後も、看護・福祉に携わる者としてふさわしい、明るく、元気な挨拶ができるよう指導を続けてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・看護師・介護福祉士に求められる体力、忍耐力をつけるためにふさわしい種目を選び、継続して指導する。 ・立ち止まったの挨拶が本校の伝統となり、自然な挨拶ができるよう継続して指導する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
4 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、中学校訪問、個別説明会等を通して、看護師・介護福祉士の魅力と必要性を具体的に説明するとともに、本校の教育活動とその成果についての広報活動を行う。	<p>健康福祉科の一般入試の志願者数が昨年度より</p> <p>A 大きく上回った。(30%以上) B 上回った。(20%以上) C 変わらなかった。 D 下回った。(10%以上)</p>	<p>平成29年度健康福祉科一般入試志願者数 14人</p> <p>平成28年度健康福祉科一般入試志願者数 16人</p> <p>2人減 評価 D</p>	<p>体験入学、中学校訪問、個別説明会、出前授業、情報誌の発行等で本校の特長や介護福祉士の魅力等の情報提供をした。</p> <p>地元中学生の志願者数が伸び悩んでいる。中学生・保護者に対して「有為な人材」を育成している点、介護職の魅力・必要性をアピールし、健康福祉科の志願者増加に繋げる。関係機関・福祉施設、本校卒業生と連携し、介護・福祉の魅力を伝えることができる出前講座の企画を検討する。</p>
		<p>健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が</p> <p>A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。</p> <p>C以下の場合、説明の内容や方法の見直しをする。</p>	<p>出前授業アンケートで健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が</p> <p>100%</p> <p>評価 A</p>	<p>小学校の出前授業(6回)と地域講習会(2回)においてアンケートを実施した。全員が「理解できた」と回答している。</p> <p>来年度は出前授業のパンフレットを作成して小学校に送付し、福祉(本校、健康福祉科)について広くPRする機会を増やす。</p>
学校関係者評価委員会の評価	本校が担っている地域の医療・福祉を支えるという役割や、本校の教育活動について、あらゆる機会を通じて発信に努めるべきである。健康福祉科の出前授業は、福祉に対するイメージアップ、将来の志願者増に役立っている。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・本校衛生看護科・健康福祉科の特色ある教育活動について様々な機会をとらえて、情報発信に努める。特に健康福祉科については、関係機関・福祉施設と連携し、報道等による負のイメージが払拭できるよう努める。小・中学校への出前講座を継続し、福祉に対する理解を浸透させ、志願者を増やす努力をする。			